

アレピアチン、アムピゾーム、セルシン、マンニトールは、単独投与

Table with columns for drug names (e.g., アドナ静注, アミオダロン注「TE」) and rows for various parameters (e.g., 指定溶解液, pH, 配合不可, 配合可). The table contains a grid of colored cells (orange, green, red, black) representing compatibility data.

※可否の基準 ○: 配合24時間後、残存率が90%以上のもので外観変化がない
赤字: 色調変化が生じるうる時間 直: 配合直後に色調変化を認めるが、その後24時間変化を認めないもの 黒字: 配合後の残存率が90%以下になりうる時間
×: 配合直後の残存率が90%以下(配合後急激な力価低下のもの) 又は、配合24時間以内に、色調以外の外観変化(混濁、沈殿、結晶析出、ゲル化など)を認めるもの
( )で表記しているデータは同一成分だが他社製品(先発品または後発品)のデータのため参考データとする
\*: ドブボン注シリンジについては配合試験データがないため、同成分であるドブレックス注の試験データに準ずる
†: ヒューマリンR注およびプレセデックス注について、( )で表記しているデータは相手薬剤が一般名でのデータのため参考データとする

<参考文献>
注射薬調剤監査マニュアル2021
改訂10版解説 注射薬の配合変化
注射薬調剤監査マニュアル第4版
各薬剤配合変化表、インタビューフォーム